



取組概要

海外からの来訪者等に多様なサービスを提供するための
意思・情報伝達サポートの実現

社会情勢／社会課題

日本の観光立国を推進し、
国内経済の活性化につなげる

世界的な成長産業である観光関連産業を日本経済の成長戦略の柱のひとつとして位置づけ、訪日外国人旅行客の飛躍的増加を実現するためのインフラやサービスを整備する必要がある

長期ビジョン

外国人観光客が言葉や文化の違いによるストレスを感じずに快適に日本に滞在できるようにする

東京大会での役割

海外からの来訪者の移動や会話に伴うストレスを軽減し、競技観戦や日本観光をもっと楽しめるようにする

3つの手段

1 ソーシャルインパクト

言語や文化の違いを超えて誰もが自由・快適に交流・観光できる新たなグローバル都市像の発信

2 大会ホスピタリティ

言語や文化の違いを超えてすべての来訪者に同じ品質のおもてなしやサービスを提供できる

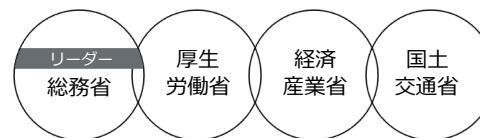
3 シェアードバリュー

日本全国への当該インフラ整備により、訪日外国人観光客のさらなる獲得へつなげる

2020年に向けたコンセプト



Hospitality Innovation 2020 スマートホスピタリティ



海外からの来訪者に、移動や会話に伴うストレスのない、やさしい誘導を

実施状況

海外からの来訪者等に多様なサービスを提供するための意思・情報伝達サポートの実現
 ～多言語音声翻訳システム～

実施概要

- 総務省及び国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）によるこれまでの研究開発により、NICTの多言語翻訳技術は、**12言語**(※)で**実用レベルの翻訳精度を実現**。
 (※)日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、ミャンマー語、フランス語、スペイン語、ブラジルポルトガル語、フィリピン語
- **NICTから民間企業への技術移転**が進み、様々な翻訳サービスが**実用化・普及**し、日常生活・行政手続・観光等の様々な場面で活用。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においても、同技術の活用により、**選手や大会関係者等への「言葉の壁」を感じさせることない「おもてなし」を実現**。

多言語音声翻訳システムの仕組み



民間サービスの普及



多様な翻訳端末・アプリが登場



【行政】市役所等
 (就労、保育等の生活相談)

【医療】病院、保健所等

【民間企業】鉄道会社等

実施状況

海外からの来訪者等に多様なサービスを提供するための意思・情報伝達サポートの実現
～多言語音声翻訳システム～

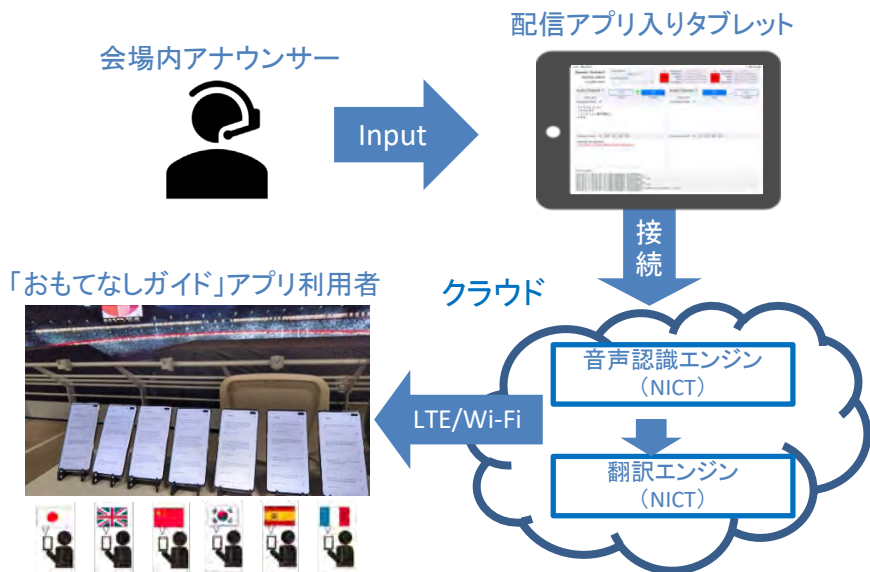
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における実施状況

■ 競技会場への多言語放送システムの整備

組織委員会・東京都・総務省の連携(※1)により、大会期間中の約40の競技会場において、会場内のアナウンス等を、スマホアプリを通じ文字により7言語(※2)により翻訳表示するシステムを整備。

(※1) 同時通訳技術の研究開発の一環として実施

(※2) 日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語・スペイン語・フランス語



システム概要

■ 翻訳機・翻訳アプリ・ボイストラの配備・活用

● 音声翻訳端末・アプリの活用

- ✓ 都内の競技会場や選手村等に、翻訳機「ポケットーク」(※3)を約300台配備。

(※3) ソースネクスト社が開発・販売する翻訳機。NICTの音声翻訳技術を活用。



※写真はポケットークHP(<https://pocketalk.jp/>)より抜粋

- ✓ 選手村において、各国のアスリートに対して、スタッフが翻訳アプリ「はなして翻訳」(※4)を活用し、快適な滞在をサポート(延べ人数 9,000人を対応)。

(※4) NTTドコモ社が提供する翻訳アプリ。NICTの音声翻訳技術を活用。



● 大会ボランティアに対するボイストラ導入の案内

組織委員会から大会ボランティアに対し、多言語対応に関してボイストラの導入・活用を案内。各ボランティアにおいて活用。

VoiceTra[®]



実施状況

海外からの来訪者等に多様なサービスを提供するための意思・情報伝達サポートの実現
～電子地図等の空間情報インフラの整備の促進～

実施概要

- 屋内や地下空間を含めた屋内外シームレスなナビゲーションの実現に向けて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関連する施設を中心に、屋内電子地図や屋内測位機器等の環境づくりを推進。
- 民間サービスの創出促進のため、誰でも自由に利用できる空間情報インフラとして、実証実験で整備した
 - ① 屋内電子地図、② 屋内測位機器(ビーコン)の配置のデータをオープン化。

屋内外ナビゲーションサービス実現に当たり、屋内空間特有の課題

- ① 屋内の電子地図がない
- ② GPSの電波が届かないため、現在地の測定が困難 等

実証実験を通じて技術検証・標準化促進

サービスの実現・普及に向けた実証実験

- 東京駅、新宿駅など4エリアにおいて、関係者の協力を得て屋内電子地図や屋内測位機器を整備し、実証実験を実施
- 実証期間中アプリを一般公開し、段差回避ルートや、屋内と屋外のシームレスなナビゲーションを実験
- 実証実験における民間サービスとの連携、民間アプリベンダーの実証参加
- 屋内位置情報サービスの創出を促進するため、屋内地図/屋内測位環境構築の手引き(案)を策定
- 利用者ニーズの把握等を目的とした屋内空間情報インフラを活用したサービス利活用検証を実施

G空間情報センターを核とした屋内電子地図等のオープンデータ推進

- 階層別屋内地図の標準仕様書を策定(国土地理院)
- 実証実験において整備した屋内電子地図、屋内測位機器(ビーコン)について、標準仕様に準拠しデータのオープン化
- 屋内電子地図の流通拠点として、「G空間情報センター※」を位置づけ

※G空間情報センター：平成28年に稼働が開始された官民間問わず様々な主体により整備・提供される多様な地理空間情報を集約し、利用者がワンストップで検索・ダウンロードし利用できる、産学官の地理空間情報を扱うプラットフォーム。

国土交通省
歩きスマホはやめましょう

屋内ナビサービスを体感しよう!

実施期間
2021年
7/21~9/30

歩きながらのスマートフォンの操作や画面の注視は大変危険です。必ず安全な場所に立ち止まって操作してください。

国土交通省では、「高精細測位社会プロジェクト」の一環として、屋内地図や屋内測位技術を活用した位置情報サービスへのニーズ等を把握する事業を実施いたします。ポスター記載の屋内ナビサービスをご利用いただき、アンケートにご協力ください。ぜひこの機会に屋内ナビサービスをご利用いただき利便性を体感してみてください!

アンコードサイト 高精度測位社会プロジェクトウェブサイト

もくろみ(案)を策定し、**東京ステーションナビ**、**日本橋室町地区におけるインクルーティブなサービス**、**PinnAR**、**新橋えきナビ 2021 Summer**、**HANEDA MAP**、**IPINT-K MAP**等のサービスを開発・提供し、実証実験を実施しています。

屋内空間情報インフラを活用したサービス
利活用検証ポスター

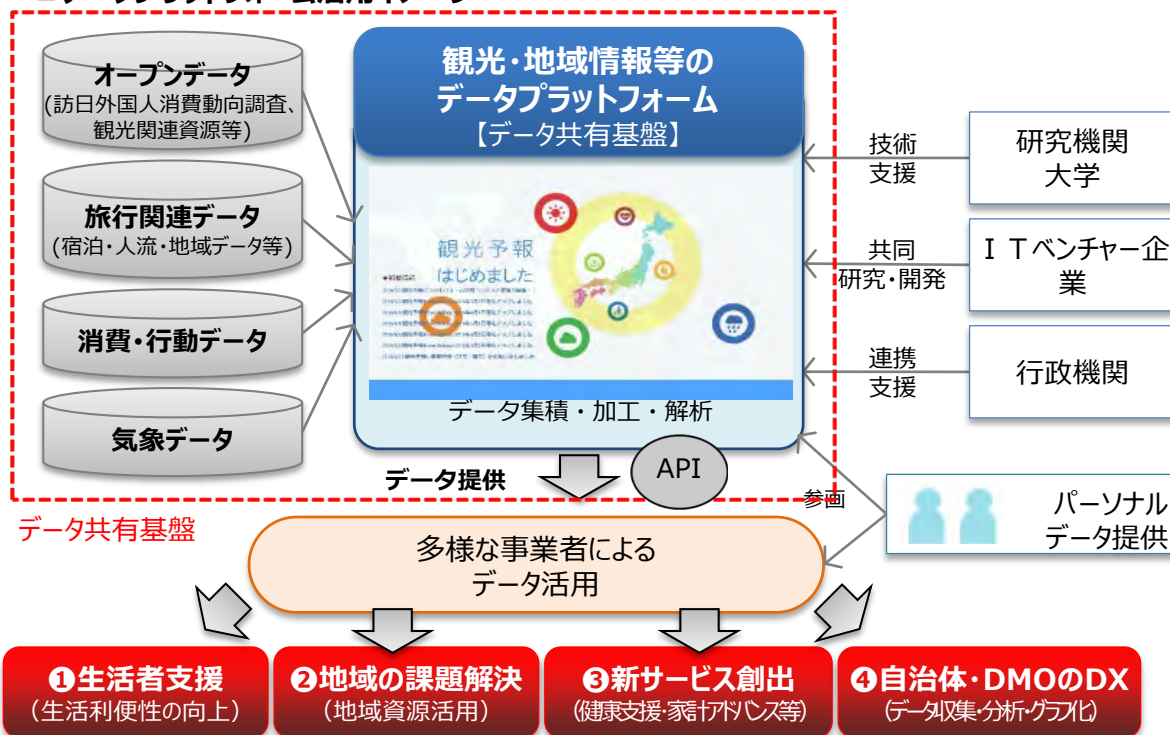
実施状況

海外からの来訪者等に多様なサービスを提供するための意思・情報伝達サポートの実現
～サービス向上プラットフォームの整備～

実施状況

- ▶ 観光・地域情報等のデータプラットフォームを整備。宿泊データに加え、多様な観光関連実績データの取り込みと消費（決済・利用）データの拡充により、観光関連産業の効率化・収益向上を実現。
- ▶ プラットフォームのデータ収集・分析により、自治体やDMOの観光戦略策定を支援。
- ▶ 地図情報上に、気象情報・観光資源情報・ローカルイベント情報・安心安全情報・公共情報などを掲載。「日本の四季」を観光資源化。
- ▶ 経路探索サイトと連動し、観光スポットなどの閲覧者へ経路情報（交通手段・所要時間）を提供し、観光客の行動を支援。

■ データプラットフォーム活用イメージ



■ 経路探索サイトとの連動

